

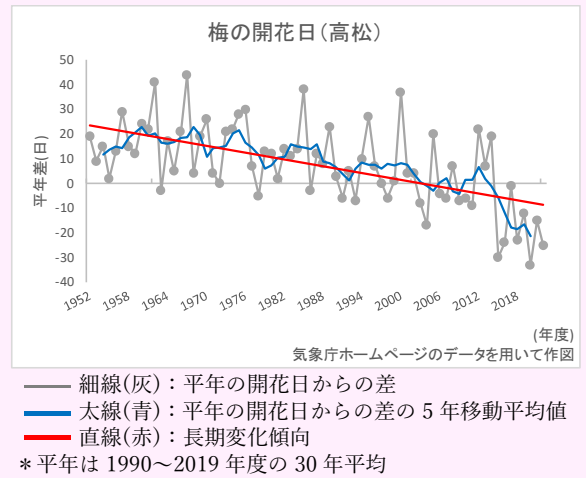
身近にある気候変動の影響

梅の開花日

今回は、春の訪れを告げる花である梅の開花日について紹介します。

今年度(2022年度)、高松の梅の開花日は12月19日で、これは平年より25日、前年度と比べて10日早い開花となりました。高松における梅の開花日は徐々に早まっており、10年あたり約4.2日の割合となっています。

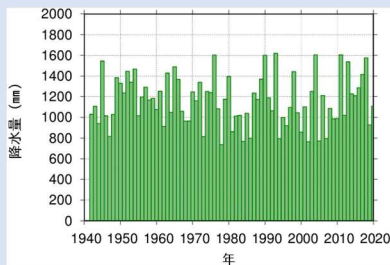
このように、気候変動は自然にも影響を及ぼしており、こうした影響を少しでも抑えるためにも、私たちの日々の取り組みが重要であると考えられます。



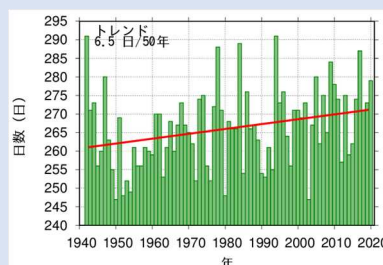
降水量と気候変動の関係

香川県は、瀬戸内海式気候で雨が少なく、川は短く急こう配のため、すぐに海に流れ込むという地理的条件から、たびたび水不足に悩まされてきました。令和5年3月14日より、香川用水の第一次取水制限が行われており、より節水を意識する生活が必要です。そこで、水環境・水資源における気候変動影響について紹介します。

高松の年降水量については、はっきりとした長期的な変化傾向は見られません(図1)。しかし、雨の降る日は減少傾向(図2)にあり、直近10年間の短時間強雨の年間発生回数が統計開始当初より増加するなど、雨の降り方に変化が見られるようになり、その影響として河川の水温上昇、取水制限等が挙げられます。



(図1) 高松の年降水量の推移 (期間: 1942~2020年)



(図2) 高松の年間無降水日数の推移 (期間: 1942~2020年)



将来の年降水量の変化予測では、ほぼ全国的に有意な傾向は見られません。

しかし、1地点あたりの短時間強雨の年間発生回数は2倍以上になり、年間無降水日数は約10日増加する(図3)など、降水現象がより極端化すると予測されています。

無降水日の増加による河川水量・ダムへの流量の減少、渇水が深刻化する時期の水質悪化の懸念、等が将来の気候変動影響として予測されています。

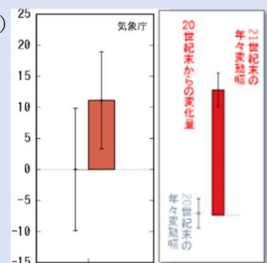
水質の常時監視、家庭や工場事業場からの汚濁負荷の削減対策等の適応策を推進していくとともに、私たち一人ひとりが節水の意識をもって

日々生活を送ることが重要です。

※データ提供: 高松地方気象台

※イラスト出典: 気候変動適応情報プラットフォーム、気象庁(「雨と風」)

(日/地点)



(図3) 香川県の年間無降水日数の変化

※20世紀末の平均日数を0としたときの変化量を表す。

香川県気候変動適応センター

公式HP: https://www.pref.kagawa.lg.jp/kanpokentekiou_center/kfvn.html



事務局: 香川県環境保健研究センター

TEL: 087-825-0400

E-mail: kanpokent@pref.kagawa.lg.jp